

食事介助に関する意識調査

施設名：和光園ケアサービス課介護

発表者：中村創

山城正子 与那嶺久子 他

1. はじめに

食事介助の最大のポイントは、呼吸の安全性の確保である。そのために、誤嚥防止に関する勉強会を重ねてきた。今回、「食事介助の現状を調査し、さらなる知識及び技術の向上を目指す」ことを目標に、職員の食事介助に関する意識調査を行った。その結果、今後の改善点が明らかになったので報告する。

2. 目的

- 1) 食前、食事中、食後の誤嚥防止のために各自が常に意識して行っていることを明らかにする。
- 2) 食事を混ぜる行為に潜む危険性の理解度を知り、どのような工夫がされているのかを明らかにする。

3. アンケート調査

- 1) 対象：ケアサービス課職員全員
- 2) 職員数：43人
- 3) 回収率：98%
- 4) 期間：平成20年9月29日～10月20日

4. 結果（添付資料参照）

5. 考察

食事介助の意識調査で「時々」行っているの項目も含め、約8割の職員が誤嚥防止のケアを行っていることがわかった。しかし、誤嚥事故はいつたん起こしてしまうと数分で重篤な状態を引き起こしてしまう。全員が必要なケアを常に実施できるようにならなければならない。そのためには、現在、各自が自分で出来ていない項目を自覚し、より一層、知識、技術の研鑽に励み食事の安全を確保できることが求められている。

そこで、カンファレンスやミーティングでアン

ケート調査の結果について振り返りを行い、表とグラフを掲示版に張り出した。

食前の発声訓練、顔や首筋のマッサージ等が十分にできていない原因と、それによって引き起こされる危険性、誤嚥事故発生時の対応方法、吸引器の取扱などの勉強会も再度行われた。食前の口腔ケア、手指の消毒、環境作りも業務改善の見直しが行われた。

食事を混ぜて時間が経つと、食事形態によっては水っぽくなり、むせ込みを誘発する。「むせのために食事時間が延長すると、必要量を摂取する前に血糖値が上昇して満腹感を感じ食欲が低下する。その結果、長期的に栄養吸収率は低下する。」

アンケート調査後は、食べる直前に一口ずつ混ぜ、水分が出ないように工夫をするようになってきた。また、以前よりも混ぜる行為は少なくなった。

眠剤、抗痙攣剤など、または夜間の不眠などで日中ウトウトとされている方などは、咀嚼や嚥下運動が抑制されている可能性もある。食前に覚醒しているか確認することは誤嚥予防の基本である。アンケートの記述欄に「意識レベル、覚醒状態を確認している」という内容をきちんと記載している職員も数人いた。

今回のアンケート調査を通して、安全な食事介助の提供は、生命維持の上で最も重要であることを改めて認識した。今後も利用者が安全で楽しい食事時間を過ごせるように努めていきたい。

印1、2 参考資料：「老健」2008.12 p50 舘村卓氏
「施設現場での評価 - 症状とリスクファクター - 」

表 食前に誤嚥防止のためにやっていること

アンケート項目	常に	時々	行っていない	合計
体位調整	34(79%)	6(14%)	1(2%)	41
マッサージ	3(7%)	37(86%)	2(5%)	42
発声訓練	2(5%)	27(63%)	10(23%)	39
口腔ケア	5(12%)	20(47%)	15(35%)	40
蓄痰音の確認	31(72%)	7(16%)	2(5%)	40
食事形態の確認	31(72%)	8(19%)	1	40
食事温度の確認	35(81%)	4(9%)	0	39
食事内容の確認	17(40%)	16(37%)	5(12%)	38
手指の清潔	21(49%)	14(33%)	3(7%)	38
音楽をかける	3(7%)	15(35%)	21(49%)	39
静かな環境作り	2(5%)	21(49%)	14(33%)	37
利用者と会話	29(67%)	12(28%)	1	42

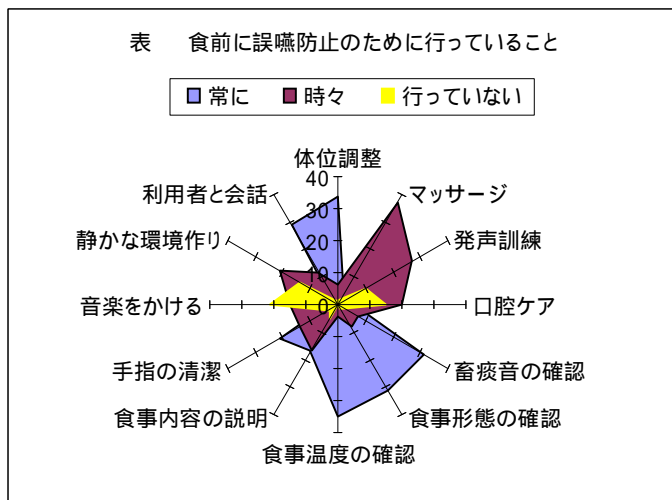


表 食中に誤嚥防止のためにやっていること

アンケート項目	常に	時々	行っていない	合計
体位調整	30(70%)	9(21%)	0	39
蓄痰音の確認	29(67%)	8(19%)	1	38
食事形態の確認	31(72%)	8(19%)	0	39
食事温度の確認	33(77%)	3(7%)	1	37
飲み込み確認	38(88%)	1	0	39
1回量の調整	34(79%)	6(14%)	0	40
表情の確認	37(86%)	3(7%)	0	40
口腔内残渣物確認	34(79%)	6(14%)	0	40
利用者と会話	28(65%)	12(28%)	0	40

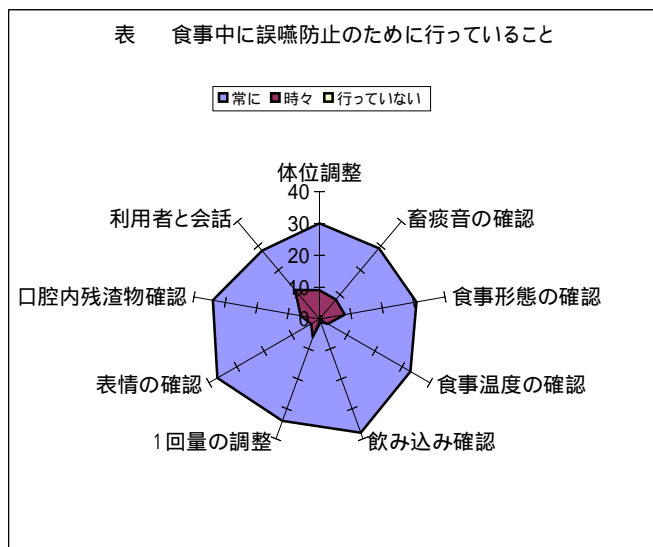


表 食後に誤嚥防止のためにやっていること

アンケート項目	常に	時々	行っていない	合計
蓄痰音の確認	30(70%)	9(21%)	0	39
口腔内残渣物確認	35(81%)	1	1	37
口腔ケア	32(74%)	5(12%)	0	37
ベッド上で上半身アップ	33(77%)	8(19%)	0	41
呼吸や表情の確認	30(70%)	9(21%)	0	39

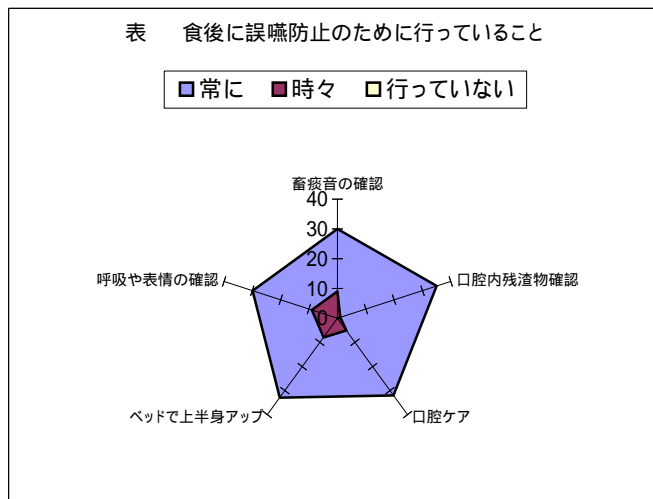


表 食事を混ぜる理由

アンケート項目	合計	アンケート項目	合計
利用者の要望	23(53%)	食べやすそう	14(33%)
硬さを調整	21(49%)	食べさせやすい	7(16%)
さまざまため	20(47%)	早く終わるので	1
味の調整	17(40%)	その他	1
ゆるみを調整	17(40%)		

表 食事の混ぜ方

アンケート項目	合計
小皿で少量ずつ	33(77%)
一口ずつ	19(44%)
利用者の状況	7(16%)
一度に全部	3(7%)
混ぜない	2(5%)